

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第10回定時総会議事録

- I. 日 時 令和 5 年 6 月 2 8 日 (水) 1 3 時 0 0 分から
- II. 場 所 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターRoom B
(東京都千代田区神田駿河台 4 - 6 御茶ノ水ソラシティ 1 階)
及び Web 会議システム
- III. 出 席 者 会 員 畠山鎮次ほか 1 0 6 名 (内訳別紙出席者名簿のとおり)
理事長 栗原 敏 (議事録作成者)
理 事 江藤一洋, 齋藤宣彦, 高木 康, 斎藤隆史 (Web), 三谷昌平
河野文昭 (Web), 新田 浩 (Web), 伊藤俊之, 石田達樹
仁田善雄, 石原 慎 (Web), 山口育子, 横手幸太郎 (Web)
別所正美 (Web), 釜 范 敏 (Web)
監 事 村田貴司, 鈴木裕子 (Web)
陪 席 葛西一貴

IV. 審議事項

1. 審議事項

第 1 号議案 令和 4 年度収支決算 (案) について

第 2 号議案 公的化後の歯学系臨床実習前共用試験受験料 (案) について

2. 報告事項

- (1) 令和 4 年度事業報告について
- (2) 共用試験の課題と対応状況について
- (3) 機構委員の委員活動に関する教育業績評価への反映について
- (4) 令和 4 年度活動報告年報について
- (5) 共用試験成績について

3. 配付資料

資料番号なし 第 1 1 回臨時総会議事録 (案)

資料番号なし 機構会員名簿

資料 1 - 1 貸借対照表 (案) (令和 5 年 3 月 31 日現在)

資料 1 - 2 正味財産増減計算書 (案) (令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで)

資料 1 - 3 正味財産増減計算書内訳書 (案) (令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで)

資料 1 - 4 財務諸表に対する注記 (案)

資料 1 - 5 附属明細書 (案)

資料 1 - 6 財産目録 (案) (令和 5 年 3 月 31 日現在)

資料 1 - 7 監査報告書

資料 2 公的化後の歯学系臨床実習前共用試験受験料 (案) について

報告資料1	令和4年度事業報告書
報告資料2－1	歯学系 CBT の公的化に向けての対応状況
報告資料2－2	歯学系 Pre-CC OSCE の公的化に向けての対応状況について
報告資料2－3	歯学系 PX 実施管理委員会報告（2023年5月）
報告資料2－4	医学系 CBT 公的化にあたっての状況報告
報告資料2－5	医学系 Pre-CC OSCE 公的化にあたっての状況報告
報告資料2－6	医学系 Post-CC OSCE の課題点と対応状況について
報告資料3	共用試験へのご協力のお礼とお願い
報告資料4	令和4年度活動報告年報
報告資料5－1	共用試験2022医学系 CBT 結果表
報告資料5－2	共用試験2023歯学系 CBT 結果表
報告資料5－3	共用試験2022医学系臨床実習前 OSCE 結果表
報告資料5－4	共用試験2023歯学系臨床実習前 OSCE 結果表
報告資料5－5	共用試験2022医学系臨床実習後 OSCE 結果表
報告資料5－6	共用試験2022歯学系 Post-CC PX 結果表

V. 議事の経過の要領及び結果

栗原議長から、定款の改正により今回から理事長が議長を務めることになった旨及び医学系・歯学系が一体となって信頼される共用試験となるよう協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

次に、栗原議長から定足数の確認について付議、迫田事務局長から正会員111名のうち、本日の出席者52名（うちWeb出席者41名）、委任状を提出した者46名（うち理事長（議長）に委任した者36名、代理人に委任した者10名）、議決権を行使した者9名、合計107名が出席し、定款第19条第1項の規定による総会の定足数を満たしている旨の報告があった。

続いて、栗原議長から第11回臨時総会（令和5年3月24日開催）の議事録（案）の確認について付議、審議の結果、全員異議なく、原案どおり確認された。

引き続き、栗原議長から議事録署名人1名の選出について付議、審議の結果、本田雅規（愛知学院大学歯学部長）が選出された。

1. 第1号議案 令和4年度収支決算（案）について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料1－1「貸借対照表（案）（令和5年3月31日現在）」、資料1－2「正味財産増減計算書（案）（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）」、資料1－3「正味財産増減計算書内訳書（案）（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）」、資料1－4「財務諸表に対する注記（案）」、資料1－5「附属明細書（案）」及び資料1－6「財産目録（案）（令和5年3月31日現在）」に基づき説明があった。

引き続き、村田監事から令和4年度監査結果について、資料1－7「監査報告書」にあるとおり、事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示し、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められず、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産、損益の状況を全ての重要な点において適正

に示しているものと認める旨の説明があった。

併せて、村田監事から以下の点について発言があった。

- 今日は、2002年に開催された「日英医学教育会議2002」のアジェンダと報告書、また、2003年に発行された「臨床実習開始前の共用試験」を持参した。これらの資料からは、日本の高等教育としての医学教育の質の向上・保障に係る国民の負託に、当時の関係者が自ら応えようとする意気込みと、その成果を世界に発信しようとする強い気持ちが伝わってくる。その思いは、今日においても変わらないものと理解している。
- 令和4年度決算において多額の損失が生じたことは、共用試験の持続可能な発展の観点から問題であり、一過性の費用か構造的で今後増大するものか等の分析を行い、現状の具体的な課題に対処する合理的な計画を策定・実行する必要がある。
- 損失は公的化の準備に不可欠な費用の急激な発生によるものと認められるが、公的化の主務官庁や高等教育の主務官庁においては、機構の内部留保に依存することなく、機構の持続可能な運営を維持するため、必要な財政的支援や施策を講じていただきたい。
- 機構は業務の一層の合理化を行うとともに、職員を含め関係者の福利厚生を意識したマネジメントや内部のコミュニケーション等に万全を期し、職員が一丸となって現状を乗り越え、公的化に伴う役割を十分に果たすべきである。
- 機構の前身組織の事務局がAJMCに設置されたことは、当時のAJMCが後に機構が行うこととなる活動の社会的重要性を強く認識したものと考えている。公的化の実施に当たっては大学の現場に多くの負担がかかるが、機構の会員である全国の大学が連携を図り、機構事務局と共に前向きに乗り越えていただきたい。
- 会員の皆様には、日本の高等教育としての医学教育に対する国民の負託に応え世界に発信しようという20年前の先達の思いに立ち返り、機構の活動を盛り立て、持続可能な状態としていただきたい。関係官庁を含め、皆様の更なる理解、支援、協力をお願いしたい。

その後、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

審議の過程における主な質問と回答の要旨は、以下のとおり。

質 問	回 答
資料1－2によると保守料が1億2千万円ほど増えているが、参考資料2のシステム改修等に関する経費2億5千万円の一部か。また、資料1－2の補助金事業費合計の増減が合わないの で確認されたい。(一戸東京歯科大学学長)	購入したシステムの保守料が増加している。2億5千万円に含まれており、購入や保守等を含め毎年度2億5千万円程度負担している。また、ご指摘の増減については修正する。(迫田事務局長)

参考資料２の事業費等の推移で令和元年度以前もずっと赤字だったのか。また、eラーニングによる資格認定については、早く進めて欲しい。 (大原岡山大学歯学部長)	公益法人の収支相償の考えに基づき収支はほぼ均衡していたが、公的化に伴う事業が始まって以降バランスが崩れてきている。(迫田事務局長) eラーニングについては、医学系の経験を踏まえて歯学系も積極的に導入する。(栗原理事長)
監事は法人に対して指摘をするものと認識している。過去の経緯は理解しており、会員は手弁当で作業していた。それを踏まえ、プログラムの改修等について機構は入札をしたことがないのではないかと。また、公的化の実証事業について、予定よりも費用を要しているが、行政側又は機構側の見込が違ったのか。(藤井日本歯科大学学長)	監事はしっかりと監査報告を行っている。また、会員の努力でここまで来たと述べている。 システムについては、入札で決めた。医学系の時にどのようなシステムを構築するか数年間に渡る予算立てをしたが、実際には業務量が著しく増えたことが大きな原因である。 予算については、機構は自助努力の組織であり、まずは自ら確保すべきと考える。文科・厚労も公的資金の援助が得られるよう努力してほしい。また、賃借料等を軽減するため事務所移転等を行い、経費を削減した上で、良好な環境の中で業務を行い、会員の協力を得たい。(栗原理事長)
令和４年度は、公的化の準備のため経費が膨らんだことは予測されるが、システム化され整った後も赤字が計上される状況を説明してほしい。また、システムのメンテナンスに毎年２億円以上かかるのか。(櫻井神奈川歯科大学学長) システム関係経費２億円の内訳を会員校に送ってほしい。(藤井日本歯科大学学長)	公的化の準備が進み講習会等が減れば、令和６年度以降の赤字は縮小される。(迫田事務局長) 新規開発はこの半分以下であり、データベースの維持やコラボレーションツールの費用も含まれる。(石田事業部長) 内訳については、後日お知らせする。(栗原理事長)
役員報酬は何人の役員に支給されているのか。１０％のカットについては、もう少し検討する必要もある。(宇田川松本歯科大学歯学部長)	両副理事長に資料１－２に記載の役員報酬が支給されている。(迫田事務局長) 常識的な範囲で今後も検討する。(栗原理事長)

２．第２号議案 公的化後の歯学系臨床実習前共用試験受験料（案）について

栗原議長から本件について付議、迫田事務局長から資料２「公的化後の歯学系臨床実習前共用試験受験料（案）について」に基づき説明があり、審議の結果、全員異議なく、原案どおり承認された。

審議の過程における主な質問と回答の要旨は、以下のとおり。

質 問	回 答
歯科大学学長・歯学部長会議の常置委員会で意見をまとめ、受験料の決定に当たっては、回答の内容について十分に配慮されたい旨の要望書を6月15日付けで理事長宛に送った。それに対する見解と説明をお願いしたい。(一戸東京歯科大学学長)	医科と歯科では試験の内容が異なることを理解いただきたい。また、人員については、新しい試験システムになって、数多くの質問等に迅速に対応する必要がある。また、働き方改革の中で事務職員が毎日深夜まで働いている。それを踏まえた体制となっている。(栗原理事長)
今より1万3千円上がることにに対して素朴な意見がある。赤字を受験生に負担させることのないようにしてほしい。新しいシステムが落ち着いたら事務員を減らし受験料を下げるのか。(一戸東京歯科大学学長)	必要性がなくなれば、人員削減も可能であるが緊急事態を乗り越えることが必要。受益者負担の観点も踏まえないとシステムは成り立たない。新しいシステムへの移行に対する関係省庁からの援助を要望する。(栗原理事長)
体制強化等の経費は受験生に負担させるべきではない。また、謝金については、学内の委員からは上げてほしいとの意見はない。出張届が出ており大学の管理下にあるため謝金は別の報酬になる。さらに、歯科の場合には複雑なOSCEにお金がかかる。分けて考えられないのか。(藤井日本歯科大学学長)	多くの専門性を持った教員が時間を割いて協力しているので、労働対価として見合った相応の謝金を出す必要があると考えている。機構の体制維持のために、費用がかかるというより、業務が増えて職員の労働時間が大幅に増えているため、職員を増やす必要がある。それを含めての体制整備と理解いただきたい。(栗原理事長)
正規雇用する必要があるのか。機密的なものもあるから正規雇用したいのか。(藤井日本歯科大学学長)	スタッフは終電で帰っている。モチベーションの問題で常勤職員であるか否かは大きい。また、共用試験開始当初に入った者は年齢が上がっている。世代交代も含めて考える必要がある。(石田事業部長)
医学系と歯学系の受験料の差5,000円について、父兄にどのように説明するのか。医学系の資料がないため比較できない。(本田日本大学歯学部学長)	参考1にあるように受験生の人数の違いによるところが大きい。(迫田事務局長) 国家試験の受験料も医学系、歯学系では異なる。会費についても医学系、歯学系では異なるが、一緒にやることで医学系の知見が活かせるなどメリットもある。機構としては、受験生や大学にできるだけ負担をかけないように引き続き国の支援を要請する。(江藤副理事長)
公的化によって歯学生が実習生として教育を受ける。その意義を社会的に発信した上で国民の理解をいただき、学生が矜持を持って実習生として頑張る気持ちになってほしい。そのための啓発活動という観点を検討してほしい。(西原九州歯科大学学長)	医学生・歯学生は国民の負託に応えられる医療者となるため評価を受けて社会に出る。そのための試験であることを理解してもらう。試験とは、自分自身を試すことで自分が至らなければ自ら顧みて勉強するためであると生理学の真島英信教授が発言されていた。そのような精神を医学生・歯学生に対するメッセージとして出していくことも必要と考えている。全く同感である。(栗原理事長)

一戸先生から理事長宛に、歯科大学学長・歯学部長からの質問を出したが、その回答がない。回答がなければ同意できないが、どのように考えているか。(本田愛知学院大学歯学部長)	意見を頂戴したという形になっている。今までも、そういった意見に対して回答は用意していない。(江藤副理事長)
細かい質問になるが、受験生の数が医科と歯科では1／3違うのに対して、雇用する事務職員は、医科系は4名、歯科系は3名となっており疑問がある。また、模型については、受験料の中に含めるのか。(本田愛知学院大学歯学部長)	画面に共有した資料で説明。体制整備の推移であるが、5年度に医学系OSCEの担当を4名増員、6年度に歯学系OSCEの担当を3名増員し、CBTと合わせて計18人で体制が整う。次は、公的化に伴って1年間に増加する業務時間である。これを事業部の1人当たり年間平均労働時間で割ると4人は必要となるが、業務を効率化し3人の増員としている。(迫田事務局長) 模型機材については、今まで大学に負担していただいている。公的化後もそのような形にしたい。(江藤副理事長)
本来事務がやるべき仕事を多くの委員が負担している。本来は3人では足りないのではというのが複数の委員の気持ちである。(新田理事)	現場をよく知っているからこそ、そのような発言があると理解している。(栗原理事長)

VI. 報告事項

(1) 令和4年度事業報告について

齋藤副理事長から報告資料1「令和4年度事業報告書」に基づき報告があった。

(2) 共用試験の課題と対応状況について

1. 歯学系 CBT の公的化に向けての対応状況について

齋藤理事から報告資料2-1「歯学系 CBT の公的化に向けての対応状況」に基づき報告があった。

2. 歯学系 Pre-CC OSCE の公的化に向けての対応状況について

葛西委員長から報告資料2-2「歯学系 Pre-CC OSCE の公的化に向けての対応状況について」に基づき報告があった。

3. 歯学系 Post-CC PX の課題点と対応状況について

江藤副理事長から報告資料2-3「歯学系 PX 実施管理委員会報告(2023年5月)」に基づき報告があった。

4. 医学系 CBT の公的化に向けての対応状況について

三谷理事から報告資料2-4「医学系 CBT 公的化にあたっての状況報告」に基づき報告があった。

5. 医学系 Pre-CC OSCE の公的化に向けての対応状況について

伊藤理事から報告資料 2－5 「医学系 Pre-CC OSCE 公的化にあたっての状況報告」に基づき報告があった。

6. 医学系 Post-CC OSCE の課題点と対応状況について

伊藤理事から報告資料 2－6 「医学系 Post-CC OSCE の課題点と対応状況について」に基づき報告があった。

報告後の主な質問と回答の要旨は、以下のとおり。

質 問	回 答
評価表入力/管理システムは、今年度のプレで使用が可能か。また、ポストの方は申請すれば使えるのか。(岡崎新潟大学医学部長代理人)	Pre-CC OSCEの方はリリースできており、最終テストを行っているところ。案内マニュアル等も含めてできる。Post-CC OSCEの方は、医学系は一部しか使われていなかったもので、今回マニュアル等を展開して、使える状態にする。(石田事業部長)
嘆願書でも提案しているが、認定講習会の完全オンライン化による実施又は機構から各大学へ認定講習会実施のための養成者の派遣を行い各大学での講習会の実施を早急に実現してほしい。また、今年度については、2名の評価者のうち認定評価者は1名でもよいといった形で進めることができないか。(高村富山大学医学部長代理人)	大学によって格差があり工夫が必要。私立医科大学の中ではお互いに事務職の勉強会をやっているところもある。(栗原理事長) 7月までに認定評価者 6,458 名を養成。AJMC への回答が各大学に共有されていると思うが、本年度は柔軟に対応することになる。認定評価者 1 名の場合は相談の上、ビデオ評価を併用する。外部評価者の派遣については、医療面接 3 名、身体診察 2 名で行う。お困りの大学は機構へ個別に相談いただきたい。(石原理事) その際は、個々人ではなく正式なルートを介して相談してほしい。(栗原理事長)

(3) 機構委員の委員活動に関する教育業績評価への反映について

齋藤副理事長から報告資料 3 「共用試験へのご協力のお礼とお願い」に基づき報告があった。

(4) 令和 4 年度活動報告年報について

三谷理事から報告資料 4 「令和 4 年度活動報告年報」に基づき報告があった。

(5) 共用試験成績について

仁田学術顧問から報告資料 5－1 「共用試験 2022 医学系 CBT 結果表」、報告資料 5－2 「共用試験 2023 歯学系 CBT 結果表」、報告資料 5－3 「共用試験 2022 医学系臨床実習前 OSCE 結果表」、報告資料 5－4 「共用試験 2023 歯学系臨床実習前 OSCE 結果表」、報告資料 5－5 「共用試験 2022 医学系臨床実習後 OSCE 結果表」、報告資料 5－6 「共用試験 2022 歯学系 Post-CC PX 結果表」に基づき報告があった。

報告事項終了後の主な質問と回答の要旨は、以下のとおり。

質 問	回 答
Post-CC歯学系と医学系に関することで、歯学系では将来的なところで公的化という言葉が使用され、医学系では将来的な国家試験化と少し異なる言葉での説明があった。以前、江藤副理事長からPost-CC歯学系に関しては、法律の改正までは行われないと聞いた記憶があるが、確認したい。(大原岡山大学歯学部長)	Post-CC OSCEが国試に繋がるかどうかは検討課題である。Pre-CC OSCEをやる、それから診療参加型臨床実習をやる、そしてPost-CC OSCEをやって、それを国試の改善に繋げるという一連の課程ができるかどうかの問題である。法的な点については、具体的に検討されていない。(栗原理事長)

VII. その他

最後に、栗原理事長から、「歴代の医学教育・歯学教育の関係者が努力して積み上げてきたことが、ある意味成熟し国民目線から見てもなるほどと思うような医師・歯科医師育成課程が構築されつつあるところまで来た。それは皆様の大変な努力の賜物であり、省庁あるいは国民に対して我々医学教育・歯学教育に携わっている者が医療者育成に努力していることについて十分に説明し、認めていただいた上で支援していただく必要がある。今後とも共通問題の解決に向け協力をお願いしたい。」との発言があった。

以上をもって議事は全て終了し、議長は15時30分閉会を宣し、解散した。

令和 5年 6月28日

議 長 栗 原 敏 (印)

理 事 江 藤 一 洋 (印)

議事録署名人 本 田 雅 規 (印)

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第10回定時総会出席者名簿

出席者（52名うちWeb出席41名）

北海道大学医学部長	畠 山 鎮 次 (Web)
東北大学医学部長	石 井 直 人 (Web)
山形大学医学部長	上 野 義 之 (Web)
群馬大学医学部長	小 湊 慶 彦
東京大学医学部長	南 學 正 臣 (Web)
岐阜大学医学部長	山 口 瞬 (Web)
三重大学医学部長	堀 浩 樹 (Web)
島根大学医学部長	鬼 形 和 道 (Web)
広島大学医学部長	栗 井 和 夫 (Web)
徳島大学医学部長	西 岡 安 彦 (Web)
佐賀大学医学部長	末 岡 榮三朗
大分大学医学部長	猪 股 雅 史
鹿児島大学医学部長	大 脇 哲 洋 (Web)
琉球大学医学部長	筒 井 正 人 (Web)
福島県立医科大学医学部長	藤 森 敬 也 (Web)
横浜市立大学医学部長	寺 内 康 夫 (Web)
京都府立医科大学長	夜 久 均 (Web)
和歌山県立医科大学医学部長	伊 東 秀 文 (Web)
岩手医科大学医学部長	佐々木 真 理 (Web)
獨協医科大学医学部長	種 市 洋 (Web)
埼玉医科大学医学部長	森 茂 久 (Web)
東京医科大学長	林 由紀子 (Web)
東京慈恵会医科大学長	松 藤 千 弥 (Web)
東邦大学医学部長	盛 田 俊 介 (Web)
聖マリアンナ医科大学長	北 川 博 昭 (Web)
金沢医科大学医学部長	岩 淵 邦 芳 (Web)
大阪医科薬科大学医学部長	内 山 和 久 (Web)
近畿大学医学部長	松 村 到 (Web)
兵庫医科大学長	鈴 木 敬一郎 (Web)
久留米大学医学部長	石 竹 達 也 (Web)
福岡大学医学部長	小 玉 正 太 (Web)
東北医科薬科大学医学部長	小 澤 浩 司 (Web)
北海道医療大学歯学部長	古 市 保 志 (Web)
北海道大学歯学部長	網 塚 憲 生 (Web)
岩手医科大学歯学部長	三 浦 廣 行 (Web)
東北大学歯学部長	小 坂 健 (Web)
日本大学松戸歯学部長	福 本 雅 彦 (Web)
東京歯科大学長	一 戸 達 也

日本歯科大学生命歯学部長
 日本大学歯学部長
 神奈川歯科大学長
 鶴見大学歯学部長
 日本歯科大学長（新潟生命歯学部）
 松本歯科大学歯学部長
 朝日大学歯学部長
 愛知学院大学歯学部長
 大阪大学歯学部長
 岡山大学歯学部長
 徳島大学歯学部長
 九州歯科大学長
 福岡歯科大学長
 奥羽大学歯学部長

菊 地 憲一郎
 本 田 和 也
 櫻 井 孝
 大久保 力 廣 (Web)
 藤 井 一 維
 宇田川 信 之 (Web)
 玉 置 幸 道 (Web)
 本 田 雅 規
 西 村 理 行 (Web)
 大 原 直 也
 馬 場 麻 人 (Web)
 西 原 達 次
 高 橋 裕 (Web)
 瀬 川 洋 (Web)

理事長に委任した者（34名）

旭川医科大学長
 弘前大学医学部長
 筑波大学医学群長
 防衛医科大学校長
 千葉大学医学部長
 東京医科歯科大学医学部長
 福井大学医学部長
 山梨大学医学部長
 信州大学医学部長
 浜松医科大学長
 名古屋大学医学部長
 滋賀医科大学長
 大阪大学医学部長
 香川大学医学部長
 高知大学医学部長
 九州大学医学部長
 熊本大学医学部長
 大阪公立大学医学部長
 自治医科大学長
 杏林大学医学部長
 昭和大学医学部長
 帝京大学医学部長
 日本医科大学長
 北里大学医学部長
 愛知医科大学医学部長

西 川 祐 司
 廣 田 和 美
 田 中 誠
 四ノ宮 成 祥
 三 木 隆 司
 東 田 修 二
 藤 枝 重 治
 小 泉 修 一
 奥 山 隆 平
 今 野 弘 之
 木 村 宏
 上 本 伸 二
 熊ノ郷 淳
 三 木 崇 範
 降 幡 睦 夫
 赤 司 浩 一
 尾 池 雄 一
 河 田 則 文
 永 井 良 三
 平 形 明 人
 小 風 暁
 川 村 雅 文
 弦 間 昭 彦
 浅 利 靖
 笠 井 謙 次

関西医科大学長
 産業医科大学医学部長
 国際医療福祉大学医学部長
 昭和大学歯学部長
 大阪歯科大学長
 広島大学歯学部長
 九州大学歯学部長
 長崎大学歯学部長
 鹿児島大学歯学部長

木 梨 達 雄
 酒 井 昭 典
 坂 元 享 宇
 馬 場 一 美
 川 添 堯 彬
 谷 本 幸太郎
 西 村 英 紀
 村 田 比呂司
 西 村 正 宏

議長に委任した者（２名）

金沢大学医学類長
 東京医科歯科大学歯学部長

杉 山 和 久
 依 田 哲 也

代理人に委任した者（１０名）

新潟大学医学部長
 富山大学医学部長
 京都大学医学部長
 神戸大学医学部長
 名古屋市立大学医学部長
 順天堂大学医学部長
 東京女子医科大学医学部長
 日本大学医学部長
 明海大学歯学部長
 新潟大学歯学部長

染 矢 俊 幸
 関 根 道 和
 伊 佐 正
 村 上 卓 道
 高 橋 智
 服 部 信 孝
 石 黒 直 子
 木 下 浩 作
 申 基 喆
 井 上 誠

岡 崎 史 子
 高 村 昭 輝
 片 岡 仁 美
 河 野 誠 司
 高 桑 修
 鈴 木 勉
 柳 澤 直 子
 阿 部 雅 紀
 星 野 倫 範
 小 野 和 宏

議決権を行使した者（９名）

秋田大学医学部長
 鳥取大学医学部長
 愛媛大学医学部長
 長崎大学医学部長
 宮崎大学医学部長
 札幌医科大学医学部長
 慶應義塾大学医学部長
 東海大学医学部長
 川崎医科大学長

羽 湊 友 則
 景 山 誠 二
 羽 藤 直 人
 池 松 和 哉
 菱 川 善 隆
 齋 藤 豪
 金 井 隆 典
 森 正 樹
 砂 田 芳 秀